

**日本学術会議 基礎医学委員会 神経科学分科会(第25期・第2回)**  
**臨床医学委員会 脳とこころ分科会(第25期・第2回)**  
**議事録**

1, 開催日時 令和3年6月27日(日) 17:30~19:00

2, 開催場所 オンラインビデオ会議

3, 出席者

神経科学分科会

伊佐委員長、柚崎副委員長、大木幹事、渡部幹事、西田委員、川人委員、  
渡辺委員、池田委員、入来委員、大隅委員、岡野委員、岡部委員、  
岡本委員、上川内委員、合田委員、定藤委員、平井委員、上口委員、仲嶋委員、  
佐倉委員(特任連携会員)

欠席者 見学委員

脳とこころ分科会

山脇委員長、松井副委員長、林(朗)幹事、青木委員、池田委員、池淵委員、  
伊佐委員、岡部委員、尾崎委員、笠井委員、加藤委員、神尾委員、萱間委員、  
川人委員、齋藤委員、坂田委員、積山委員、高橋(良)委員、高橋(英)委員、  
内匠委員、戸田委員、林(由)委員、坂内委員、藤井委員、古屋敷委員、  
三品委員、三島委員、水口委員、南委員、村井委員、吉田委員、渡辺委員、  
國井委員(特任連携会員)

欠席者 内富委員、神庭委員、熊谷委員、三村委員、寶金委員

4, 議題

【報告事項】

- 1, 脳とこころ分科会、神経科学分科会(第25期・第1回)議事録確認
- 2, 日本学術会議の最新動向について
- 3, 開催した合同公開シンポジウムについて
- 4, 脳科学関連学会連合の活動報告について

【審議事項】

- 1, 脳とこころ分科会委員長選出について
- 2, 今後の合同公開シンポジウムについて
- 3, 提言等の発出予定について
- 4, 今後の分科会活動計画について
- 5, 脳科学関連学会連合との今後の連携について

## 6, その他

### 議事

#### 【報告事項】

1, 前回議事録確認（山脇委員長、伊佐委員長より）

2, 日本学術会議の最新動向について（尾崎委員より）

尾崎委員（第二部幹事）より、4月22日に公開された「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」について紹介があり、情報発信力の強化、広報部署強化について提言されていることが紹介された。しかしながら、日本学術会議のウェブサイトがなかなか更新されない、レスポンスが遅い等の問題点がある点が指摘された。一方、ワクチン開発など日本の遅れが見えてきて、研究開発力が低下していることが危惧されるので、これを良い機会と捉えて問題提言をしなくてはいけない旨も提案された。こうした発信のための予算が無いのが問題点であるが、朗報として、ある程度サイエンス背景がある人を学術調査官として入れる動きがある。予算は法律で細かく決まっているため、今年度は会議のオンライン化で余った旅費を他に利用するの不可だが、来年度以降は解決する見通しである。

3, 開催した合同公開シンポジウムについて（池田委員、山脇委員長より）

「現代社会とアディクション」公開シンポジウムはコロナ禍で何度か延期してきたが、3月28日にオンラインにて無事に開催し、最終登録者1247名、視聴回数5248回と盛会であった（池田委員より）。

「脳とこころから見た With/Post コロナ時代のニューノーマルの課題と展望」シンポジウムは6月20日に「コロナ禍とメンタルヘルス・教育・保健医療」がオンラインで開催され約1300名の視聴があった。さらに、本日6月27日に「コロナ禍における脳科学と人工知能」がオンラインにて開催された。後日集計して報告予定である（山脇委員長より）。

4, 脳科学関連学会連合の活動報告について（伊佐委員長より）

- ① 脳科連の事務局は理研CBSの事務員がボランティアとして担当してきたが、今年9月にCBSの事務体制が変更され、これ以上支援することが困難となつたため、外部委託業者にシフト予定。
- ② 将来構想委員会（花川隆委員長、池田和隆副委員長、勝野雅央副委員長）において今後のマスター・プランや脳科連としての新しい方向性、学会誌の在り方などを議論している。
- ③ 産学連携諮問委員会において産学連携諮問委員会ワーキングを中心に（池田委員）、脳科学における産学連携を推進するため企業アンケートを実施中であり、今後評議員に対しても予定している。

- ④ 脳科学オリンピックの運営が脳の世紀推進委員会から脳科連にシフトし、事務局もクバプロからアクティブネット社に移行した。今年度は夏休みに CBT 形式で実施し、世界大会（オンライン）は 11 月末予定。
- ⑤ 広報活動は活発であり、バイマンスリーメールマガジンを広報委員長の産業医大の上田陽一先生が中心となって発行しており、各学会持ち回りでのリレーエッセイなどを通じて、学会連合の活動を周知している。脳科学の豆知識は人気がある。

## 5. その他

伊佐委員長より、科学者委員会の中に学術体制分科会が東大の吉村先生を委員長として立ち上がり、研究 integrity について議論されていることが紹介された。安全保障問題につながる研究情報の特定国への漏出を防ぐ目的で、利益相反の報告、科研費などの公的研究費の申請時には、海外からの研究費を開示することが要求されているが、非開示を条件とする海外の研究費もあるなど課題も多い。

### 【審議事項】

#### 1, 脳とこころ分科会委員長選出について

前回の脳とこころ分科会において尾崎第 2 部幹事（世話人）から、日本学術会議幹事会で、コロナ禍における脳とこころの問題は 24 期から重要な継続テーマなので、前委員長の山脇委員に引き続き就任してもらいたいと提案があった。山脇委員長は、長期間にわたって同じ人物が委員長をするのは好ましくないので期間限定という条件で委員長に選出されていた。今回、公開シンポジウムが盛会に終了したタイミングで次期委員長を選出することになった。山脇委員長から、精神科領域の委員長が続いたので、神経内科または脳外科領域の委員長が良いのではと提案があり、戸田委員から高橋良輔委員が推薦され、高橋委員が委員長に選出された。

#### 2, 今後の合同公開シンポジウムについて

伊佐委員長から、神経倫理の問題の議論をもう少し深めてから、神経倫理についての合同公開シンポジウムを今年の後半か来年に開催したいと提案があった。予算が無い中でどのように企画するかが課題である。移植再生医療分科会との合同シンポジウムの可能性も考えていきたい、Neuromodulation については別途考えたいとの提案があった。

岡野委員（移植再生医療分科会副委員長）より、移植再生医療分科会としても合同

シンポジウム開催について積極的に考えたいと回答があった。また、今回の mRNA ワクチンなど新しい治療法が出てきたときに、神経科学にも導入される可能性が出てくるが、その神経倫理をどう考えるか議論する必要が出てくるのではと提案があった。

### 3, 提言等の発出予定について（資料④、⑤）

伊佐委員長より、6月24日に日本学術会議幹事会から連絡があった「科学的助言機能・「提言」等のあり方の見直しについて（資料⑤）」の報告があった。連絡の内容としては、提言も報告も数多く出されて質も高い内容なのに、あまり周知されておらず社会へのインパクトも大きくない。改善点・問題点として

- 学会で出すべきものと、学術会議として出すべきものの区別が必要である。学術会議は分野横断、俯瞰的であることが必要である。
- 提言を受ける相手（名宛人）を明確化することが重要である。

### 神経倫理についての議論（資料④）

伊佐委員長：今後神経科学における研究倫理、脳への介入における倫理、社会への発信などが喫緊の課題である。今回の提言にどこまで含めるのか、脳への介入だけか、オルガノイドも含めるか議論したい。法律関係や患者団体なども含めて今後議論を重ねた上で執筆分担依頼をしたい。

岡野委員：移植・再生医療分科会でも活発に議論しているので、連携の可能性について議論したい。ヒトと他の動物のキメラやオルガノイドに意識があるか等の議論は出ている。分科会によって着目すべき点が多少異なり、たとえば移植再生医療分科会では幹細胞の発生ステージ等の議論はする一方で、神経科学としては議論が不足している可能性もある。日本学術会議の異なる分科会から異なるメッセージが出るのは見え方として良くないかもしれない、一本化して提言すべきか、別々に提言すべきか議論したい。

佐倉委員：学術会議から提言するのであれば幅広く提言したい。やはり「誰に向かったメッセージなのか？」が重要である。研究者への提言なのか、一般社会への提言なのか。一般社会へのアピールという面は重要である。

伊佐委員長：まずは研究者に意識して貰うことが重要。革新脳、国際脳なども関係してくるので、AMEDなどのファンディングエージェンシーも対象となる、次に政府など関係者を啓発したい。

定藤委員：広く言えば国民に対して提言することになるが、誰に向けて提言するかで、書き方が変わってくるので、誰に向けてかを最初に議論する必要がある。政府なのか学会なのかで書きぶりが全く異なる。

岡野委員：移植再生医療分科会は、学会に向けての提言として考えている。PDCAサ

イクルを考えたとき、P が学術会議だとすると、D は学会であり、最後に CA として評価・改善するのは、また学術会議ということになるのではないか。

伊佐委員長：主な対象は研究者、医療関係者ということになるのではないか。

尾崎委員：できれば一部・三部の先生方にも入って貰って横断的な提案をしたい。たとえば今自動運転などを三部で議論しているが、澤井先生、滝本先生など「誰にコンタクトをとるべきか」を情報共有したい。

伊佐委員長：メールベースで、誰に入つてもらうかについて議論を深め、分科会を中心として分担執筆を依頼したい。

高橋委員：分科会で決めてから脳科連で議論して貰うよりも、最初から脳科連と連携してはどうか？

伊佐委員長：6月 30 日の評議委員会で提案する。

岡野委員：再生医学も遺伝子治療も法律的には安全確保の法律があり、治験については安全性や有効性の議論があるが、ニューロサイエンスとしての倫理については議論が乏しい印象である。政府機関に向けても提言していく必要がある。

川人委員：診断のバイオマーカーはあまり問題が無くても、次の段階でニューロフレイドバックのような介入になると、第 2 のロボトミーではないかという議論もでる。回路を変えるという意味では思想は同じかもしれない。誰に対してどのようなメッセージを届けるのかという意味では、まず患者さんに対してだろう。

#### 4, 今後の分科会活動計画について

神経倫理についての合同シンポジウムを開催し、神経倫理について提言を行う。

#### 5, 脳科学関連学会連合との今後の連携について

医学会連合のように、脳科連も横断的連合として、日本学術会議の中に正式に位置付けられるようにする方向で検討している。

以上。